

小学校2年 図画工作 学習指導案

「人の作ったものを大切にすることを」

日時：平成 年 月 日（ ）

場所：

授業者： 教諭 上村 孝直

1 題材名

見て、見て、おはなし（「ずがこうさく1・2下」日本文教出版）

2 題材について

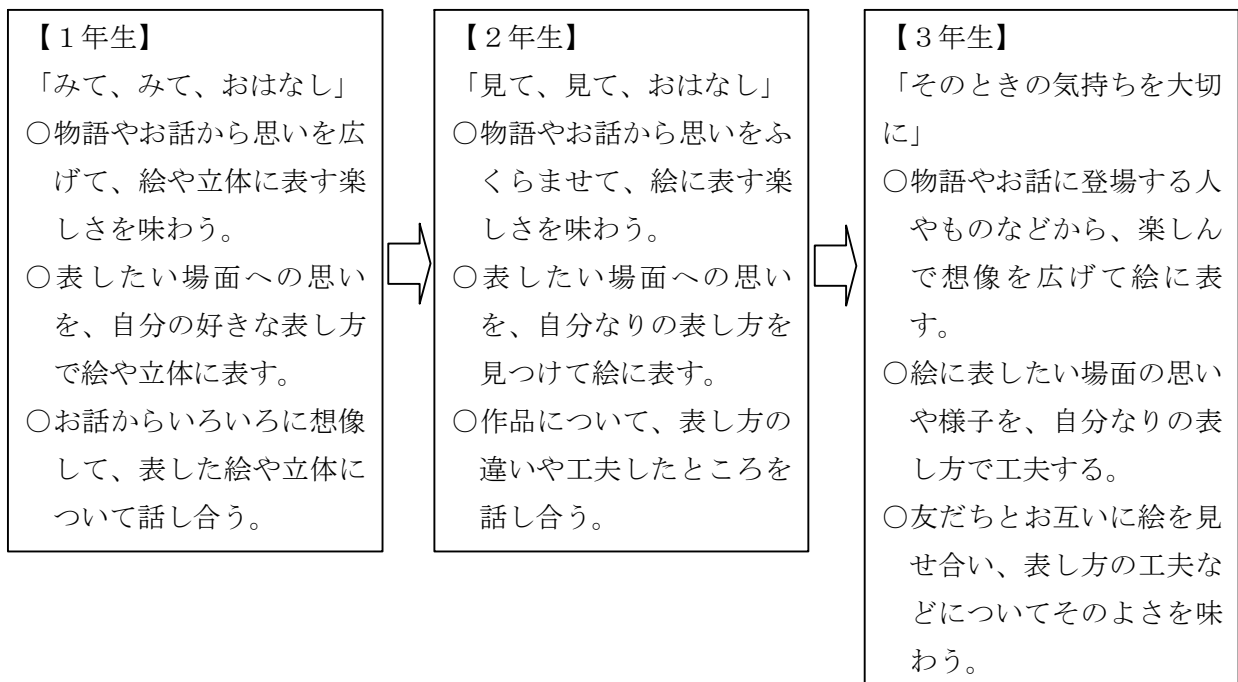
(1) 本題材は、物語やお話の言語による想像の世界を自由に楽しませ、豊かな絵画を制作することがねらいである。

学習指導要領には、低学年の絵に関する目標の内容に「表したいことを進んで見つけ、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだり、つくり方を考えるなどしながら思いをそのまま表すこと。」と書かれている。

この時期の子どもたちは、絵本や物語が大好きである。読み聞かせでは、目をキラキラさせながら聞き入っている。お話の展開を想像したり、場面を思い描いたりしながら聞いているのであろう。

このような子どもたちがお話の絵をかくことで、子どもの持っている潜在的な表現の可能性を引き出し、造形活動の資質や能力を育てることができると考え、本題材を設定した。

(2) 本題材の系統は、以下のとおりである。



(3) 児童の実態は以下のとおりである。(在籍数〇〇人)

<アンケート結果>

問1 絵をかいたりものを作ったりするのは、好きですか？

とても好き…〇〇人，どちらかといえば好き…〇〇人

(すきなわけ) どんなものができるか楽しみだから

作品ができあがったときうれしいから など

問2 自分の作品について、友だちに気づいたことを教えてもらうのは、好きですか？

とても好き…〇人，どちらかといえば好き…〇人，どちらかといえばきらい…〇人

(すきなわけ) 自分で気づいていないことを教えてもらえるから

作品のできがよくなるから など

(きらいなわけ) 自分で考えてする方が楽しいから など

問3 友だちの作品について、あなたが気づいたことを教えてあげるのは、好きですか？

とても好き…〇人，どちらかといえば好き…〇人，どちらかといえばきらい…〇人

とてもきらい…〇人

(すきなわけ) 教えた友だちに喜んでもらえるから

「ありがとう」と言ってくれるから など

(きらいなわけ) どんなことを教えればいいのか分からないから

友だちがきずつくかもしれないから など

<考察>

子どもたちは、図画工作をすべての子が「好き」と答えており、熱心に造形活動に取り組むふだんの姿とも合致する。

鑑賞に関しては、自分の作品について、友だちから気づいたことを教えてもらうのを、ほとんどの子が「好き」と答えている。その一方で、友だちの作品について、自分の気づいたことを教えてあげるのを、「好き」と答えたのは〇人に止まり、「きらい」な子が〇人いる。友だちからももらった様々なアドバイスを生かすことで、作品のできがよくなるという成功体験がある一方、友だちへどんな観点からどんなアドバイスをすればいいのか、もうひとつ自信がもてないからであろう。

これらのことから、どんな意見でも出し合えるような場の雰囲気づくりに努めるとともに、あらかじめ観点を示し、それに沿って発表することで、安心して考えを交流できるようにしていく必要がある。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

ア 子ども一人一人がイメージしたことを発表したり、簡単な文に書きとめたりするとともに、今までかいたお話の絵と似ているところや違うところ(画用紙の形、色の使い方など)を見つけさせるなどして、お話の世界を広げさせる。

イ 空を旅する乗り物をいろいろと想像しながら、自分なりの空想の世界を広げたり具体化させたりする。その中で、一人一人の表現に対して、励ましの言葉をかけることで、子どもの心をほぐし、生き生きとした線や形がかけるようにする。また、クレヨンやパスの使い方を工夫させる。

ウ できあがった作品は全部掲示して、みんなで鑑賞する習慣をつける。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1. 情報社会の倫理」、項目「b 1-1: 人の作ったものを大切にする心をもつ」との関連を重視して展開する。

イ 友だちと絵を見せ合いながら話し合う中で、お互いのよさを認め合うことや、自分はもちろん、人の作ったものも大切にしようとする態度を育てる。このことが、情報社会におけるモラルの基礎となることを意識して指導にあたる。

(6) 人権教育の視点

- ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 題材の観点別目標

造形への関心・意欲・態度	・物語やお話から思いをふくらませながら、絵に表す楽しさを味わう。
発想や構想の能力	・表したい場面への思いを、自分なりの表し方を見つけて絵に表す。
創造的な技能	・表したい場面への思いや様子を、形や色の使い方を工夫して表す。
鑑賞の能力	・作品について、表し方の違いや工夫したところを話し合う。

4 指導・評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目 (方法)
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・物語やお話を聞いたり読んだりしながら、絵に表したい場面を思い浮かべる。 ・表したい場面に合う画用紙の種類や形、かく材料を選び、思いを豊かにふくらませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人がイメージしたことを発表したり、簡単な文に書きとめたりするようにして、お話の世界を広げさせる。 ・今までかいたお話の絵と似ているところや違うところ（画用紙の形、色の使い方など）を見つけさせる。 	<p>関 物語やお話から、感じたり思いついたりしたことなどをもとに、楽しく絵に表そうとしている。（発表、観察）</p>
2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・色の使い方を工夫したり、形を切ったり貼ったりして、自分の表したい方法を考えて絵に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空を旅する乗り物をいろいろと想像しながら、自分なりの空想の世界を広げたり具体化させたりする。 ・一人一人の表現に対して、親しみのある言葉をかけることで、子どもの心をほぐし、生き生きとした線や形がかけられるようにする。 ・クレヨンやパスの使い方を工夫させる。 	<p>発 表したい場面への思いを、自分なりの表し方を見つけて表している。（観察）</p> <p>技 表したい場面の思いや様子を、形や色の使い方を工夫して表している。（クレヨン・パスの技法）</p>
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと絵を見せ合い、画用紙の使い方や表し方の工夫、よいところを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品は全部掲示して、みんなで鑑賞する習慣をつける。 	<p>鑑 物語や絵に表した場面について、表したかったことや工夫したことを話したり、聞いたりしている。（シート、発表）</p>
本時				

5 本時の学習 (6 / 6 時間)

(1) 目 標

作品について、表し方の違いや工夫したところを話し合うことができる。

(2) 展 開

過 程	時 間	学 習 活 動	○主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備 考
つ か む	5	①前時を振り返り、本時の活動を知る。	○これまでの学習で完成した作品を、みんなに紹介しよう。 ・みんなはどんな作品をつくっているか、楽しみだな。	・全員の作品を、周囲に掲示しておく。	
		めあて 自分の作品のよさを発表したり、友だちの作品のいいところを見つけたりしよう。			
気 づ く	15	②自分の表したかったことや、作品の工夫点を発表する。	○自分がどんな思いでこの作品をつくったのか、どんなところを工夫したのかを、みんなに発表して下さい。 ・どんな感想が聞けるか、楽しみだな。	・友だちのよさを見つけるための観点を、あらかじめ示しておく。	作品
ふ く ら ま せ る	20	③友だちの作品のよさを伝える。	○友だちの発表を聞いた感想を発表して下さい。 ・△△さんは、よくそんなことを思いついたなあ。 ・□□さんは、すごい工夫をしているなあ。	・どんなことでも出し合えるような雰囲気づくりに努める。 評価 物語や絵に表した場面について、表したかったことや工夫したことを話したり、聞いたりしている。(シート、発表)	シート
ま と め る	5	④まとめる。	○今日の授業の感想を発表して下さい。 ・友だちからの感想が、うれしかったです。 ・友だちの作品のよさが分かりました。	・本時の感想を、2～3名に発表させる。	

6 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a1：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 物を大切に「森のけいじばん」 4-(1)規則尊重・公德心「約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にする。」
b1：情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	道徳 物を大切に「森のけいじばん」 4-(1)規則尊重・公德心「約束やきまりを守り，みんなが使う物を大切にする。」 図工 かきたいもの、つくりたいものを見つけて「見て、見て、おはなし」 友だちと絵を見せ合いながら話し合い、お互いのよさを認め合う。（本時）
c1：情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 明るくあいさつ「おじいさんこんにちは」 2-(1)礼儀「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などを心がけて、明るく接する。」
d1：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	道徳 思い切って「ピンクいろの花」 1-(3)善悪の判断・勇気「よいことと悪いことを区別し、よいと思うことを進んで行う。」
e1：情報を正しく安全に利用することに努める。	
f1：安全や健康を害するような行動を抑制できる。	
g1：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h1：情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i1：情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	